

五十猛地区新規漁場開発調査

竹内四郎・由木雄一・勢村 均

1. 目的：五十猛漁港隣接水域利用のための適種の選定。

2. 調査期日：昭和58年5月9日

3. 調査方法

湾央を中心として図のように十字に船をはしらせ、それぞれの線について5点ずつエクマン・バージ採泥器、箱メガネ、ニコソスを用いて海底を観察した。

4. 結果

a. 観察

水深は、1～5 mの範囲であり、岸側の底質は砂に礫および小石が混入していた。砂中の石はかなり安定しており、石上にモク類が多数着生していた。底質は沖側に行くに従って砂のみになり、モク類の着生も次第に少なくなっていた。岩礁は左右岸側のところどころに散在していた。

b. 採泥(表)

底質粒径はほとんどが4～0.125 mmの間にあり、特に1～0.25 mmに集中し、中～粗砂となっていた。砂上に堆積物はなく、色もきれいで有機物分解はほとんどなく、水の交換も比較的良いことがわかった。

表1 粒径値

粒径(mm) \ 定点	1	2	3	4
4.0以上	0	1.1	0	0
2.0 - 3.9	1.1	1.1	0	1.0
1.0 - 1.9	7.5	8.7	7.3	18.8
0.5 - 0.9	43.5	75.0	72.9	71.9
0.25-0.49	44.7	14.1	19.8	8.3
0.125-0.24	3.2	0	0	0
0.105-0.124	0	0	0	0
0.104以下	0	0	0	0

(単位：%)

c. 適種

調査結果でみると水の交換はかなり良好と思われるが、安定した石にモク類が着生している様な海底地形で、中、粗砂主体となるアサリ類(コタマ)の棲息は可能であろうが、好適地とは云えない。

バイ稚貝期の棲息は可能であろうが、成貝はむしろ中、細砂又は砂泥質で水深も10 m以深が適地と考えられるので

沖合への移動が大きいのではないかという危惧がもたれる。

適種として内湾性のオニアサリが面白いが種苗の入手がむずかしい。

ナマコ(赤)には適していると思われるが、それには先ず移殖を検討しなければならないだろう。

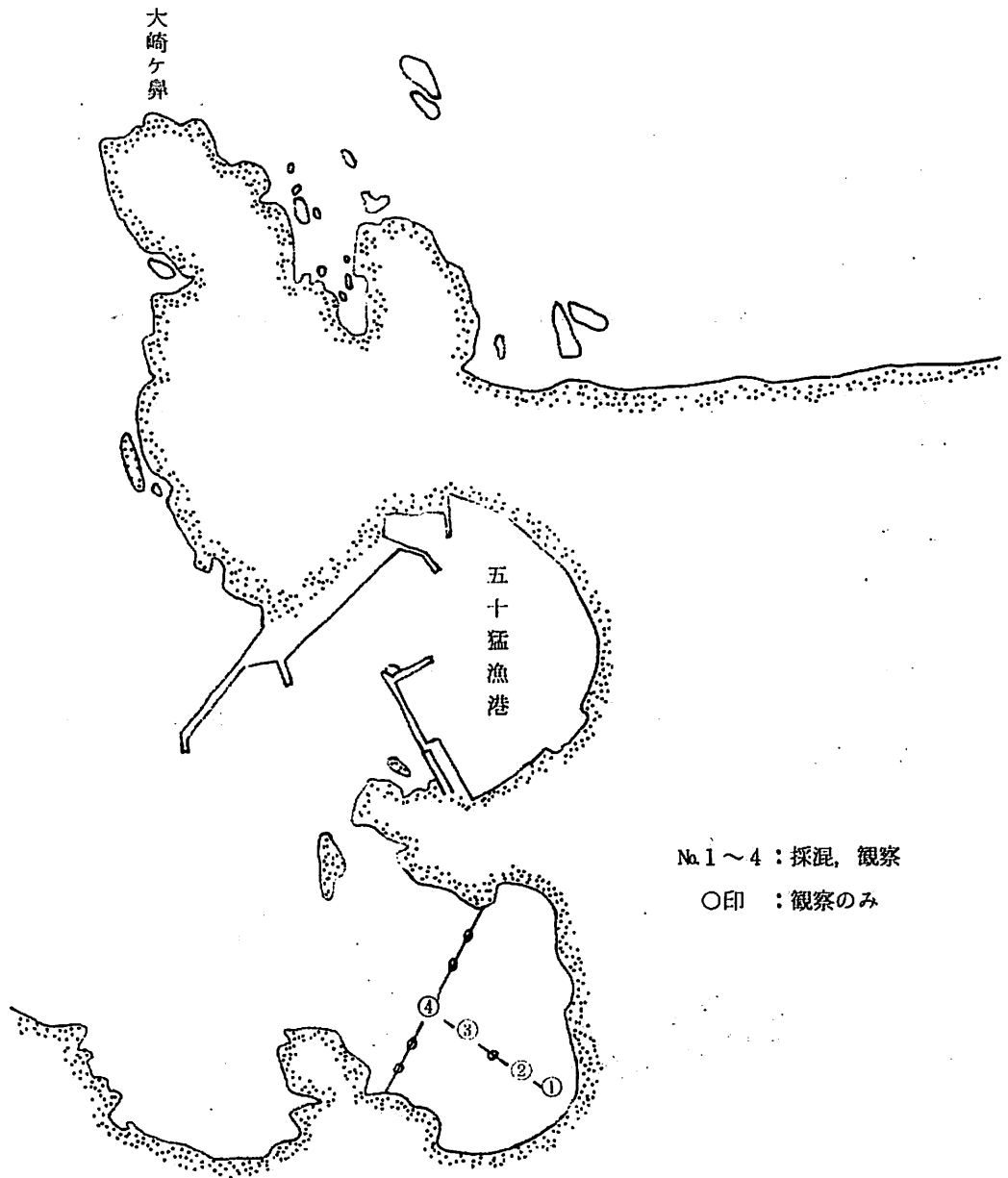


図 1 海底観察地点配置図